

文教経済常任委員会行政視察 実施報告書

令和6年 5 月8日～10日

5 月 8日(水) 愛知県一宮市

「尾張一宮駅前ビル(i-ビル)・中央図書館」について

5 月 9日(木) 三重県伊勢市

「観光施策」について

5 月10日(金) 愛知県刈谷市

「刈谷市総合文化センターアイリス内での生涯学習事業」

「中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」」について

三郷市議会 文教経済常任委員会

愛知県一宮市

「尾張一宮駅前ビル（i - ビル）・中央図書館」について

【一宮市立中央図書館について】

ー中央図書館の基本コンセプトー

知をつむぐ 学びふれあい 憩いの場

◆◆ 中央図書館の施設紹介及び業務等について ◆◆

中央図書館は図書館ネットワークの中核拠点として、専門的資料や地域資料の提供、多様なメディアを利用した高度で専門的なサービスの提供により、利用者の多様なニーズへの対応に努めています。

また、駅前立地という特性を活かし、講座・講演会・展示会などの主催により、にぎわいとふれあいの場、生涯学習の場としての機会を提供します。

【施設面】

- ・ 図書館エリアが3フロアであることを活かし、5階は児童と親子を、6階と7階は一般利用者を対象にし、利用目的にあった機能的な図書館を目指します。
- ・ 図書館の入口を5階と6階にもうけ、5階を児童向けフロアとして特化することにより、子どもの安全に配慮します。
- ・ 駅前という立地条件を活かして、広範な利用者を対象とした情報の提供をはかり、中心市街地の活性化やにぎわいの創出に寄与します。
- ・ 本などにI C タグを貼付し、自動貸出機や自動化書庫の導入により貸出し時間の短縮など利用者の利便性向上を図ります。

【主な施設構成】

延べ床面積 約 6,700 ㎡ (1 階返却ポスト・エレベーター等を含みます)

蔵書点数 約 63.3 万点 (令和 5 年 3 月 31 日現在概数)

(内訳) 一般図書	458,000 点
郷土資料	33,000 点
児童図書	92,000 点
(内絵本・紙芝居	42,000 点)
雑誌	16,000 点
A V 資料	34,000 点
(内DVD	7,200 点
16 ミリフィルム	1,200 点
C D	19,900 点)

【利用席】	閲覧席	2 2 1 席	
	ブラウジング席	4 2 席	
	学習室（6階）	1 6 0 席	
	学習室（5階児童調べ学習室）	3 6 席	
	多目的室1・2	1 1 7 席	※1
	講座室	3 0 席	
	インターネット席	9 席	
	（5階2席、7階7席）		
	AVブース席	2 4 席	
	（5階10席、6階14席）		
	持ち込みパソコン席（7階）	2 4 席	
	合 計	6 6 3 席	※2

※1 多目的室は学習室・展示室等としても利用します。

※2 席数は、机・椅子等の配置により若干の変動があります。

【5階】約1,780 m²

絵本・紙芝居・児童書を取りそろえ、子どもや親子が気兼ねなく本と親しめる空間となっています。読み聞かせをする「おはなしのへや」や、靴をぬぎリラックスして絵本を読むことができる「じゅうたんコーナー」があります。「児童調べ学習室」では、子どもたち同士で調べものができる資料を取りそろえており、子どもたちの探究心を育みます。

子どもの目線を配慮した書架段数とし、フロアの配色にも優しさと楽しさを取り入れ、子どもたちがのびのびと本と親しめる空間を創造します。また、ボランティアとの協働により、定期的な読み聞かせ会や子どもと本を繋ぐ各種催しを開催します。

（絵本・紙芝居・児童書・児童用視聴覚資料・おはなしのへや・閲覧席48席・児童調べ学習室36席・AVブース10席・インターネットブース2席・資料検索機3台、自動貸出機1台）

【6階】約2,500 m²

一般利用者が出入りされるメインフロアで、一般書・視聴覚資料・新聞・雑誌などがあるフロアです。読みものや小説、趣味に関する資料などを中心に配架されており、「大活字本・点字本コーナー」や、10代の方に読んでほしい本を取りそろえた「ティーンズコーナー」があります。「新聞・雑誌コーナー」のブラウジング席では窓の外をながめながら、ゆったりとくつろいで新聞や雑誌を読むことができます。

(一般書・新聞・雑誌・点字本・大活字本・視聴覚資料・閲覧席 71 席・ブラウジング席 42 席・学習室 160 席・AVブース 14 席・対面朗読室 2 室・資料検索機 3 台・自動貸出機 2 台・多目的室 2 室(81 席+36 席)・視聴覚ライブラリー)

【7 階】 約 1,780 m²

一般書・参考図書・郷土資料などがあるフロアです。研究や調査に役立つ資料を取りそろえ、レファレンスカウンターを設けた調査研究のためのエリアです。ビジネスに役立つ資料がある「ビジネス支援コーナー」や、一宮市の地場産業である繊維産業に関する資料を取りそろえた「せんいコーナー」があります。

(一般書・参考図書・郷土資料・ビジネス支援書・法規集・新聞縮刷版・閲覧席 102 席(内社会人専用席 41 席)・インターネットブース 7 席・資料検索機 3 台・データベース席 4 席・持込パソコン席 24 席・持込パソコンブース 1 席・自動貸出機 1 台・講座室 30 席等)

【屋上】 約 440 m² (自動化書庫)

閉架書庫として約 30 万冊の資料が収納可能です。5 階・6 階・7 階からのコンピュータ操作により、各階での入出庫が可能です。

【中央図書館の運用面】

- ・ 休館日 第 1、第 3 月曜日(祝休日を除く)
 祝休日の翌日(土日祝休日を除く)
 12 月 29 日～1 月 4 日
 特別整理休館日
- ・ 開館時間 午前 9 時～午後 9 時まで
- ・ 貸出対象 従来は隣接 9 市町村であった住所要件を廃し、氏名及び住所を明らかにできる方を対象とします。(H24.10.1 施行)
- ・ 運用方法 直営(一部業務委託)
 カウンター業務などの図書館運営業務の一部を、公募型プロポーザルで選定した業者に委託して運用します。
 委託業者
 (株)図書館流通センター(本社;東京都文京区)
 委託期間:令和 4 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

【その他】

○ 豊島図書館の閉館 平成 24 年 9 月 30 日（日）午後 6 時閉館

閉館後の施設は、博物館事務局に管理移管し、平成 25 年度に耐震工事を実施後、織機類を収蔵・展示し時期を限って公開するとともに、考古資料や公文書資料等の収蔵施設としての利用を検討しています。

また別館 1 階については、引き続き移動図書館車の基地及び書庫としての利用を継続することとしています。

○ 中央図書館の開館 平成 25 年 1 月 10 日（木）午前 9 時開館

豊島図書館の閉館から中央図書館の開館までの約 3 ヶ月間にて、豊島図書館所蔵の図書・CD・DVD など約 32 万点に加え、オープンに備えて除籍を延期して蓄えた資料約 6 万点、新たに購入した絵本や児童書・一般書・雑誌などの 8 万点を加え、46 万点の蔵書点数を備えた中央図書館として開館しました。

○ 豊島図書館・中央図書館以外でも、3 年間をかけ、市立図書館全館所蔵の図書資料（約 80 万点）に I C タグを貼付してきました。

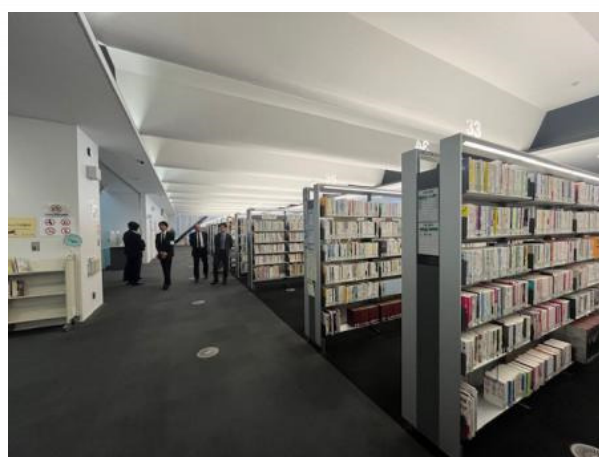
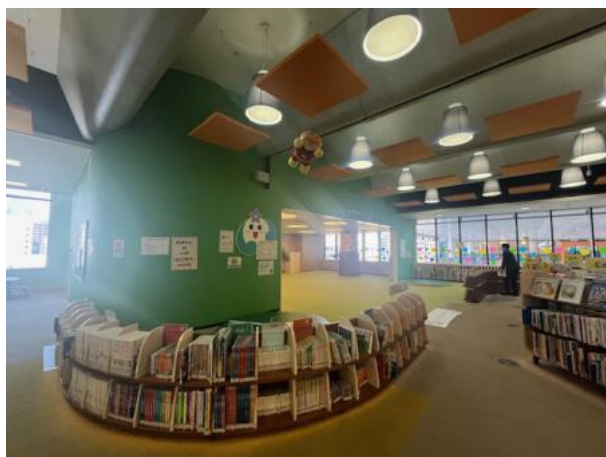
平成 24 年 10 月には、尾西・木曽川・子ども文化広場等の各図書館において図書館システム機器・ソフトのバージョンアップを行ない、I C タグを活用した自動貸出機等が稼動を開始しています。

その後、5 年ごとに図書館システム機器等の更新をしています。（平成 29 年、令和 4 年）

平成 29 年 1 月 12 日から電子図書館サービスの運用を開始しました。

令和 3 年 5 月 21 日から、スマートフォンに貸出カード番号のバーコードを表示し、貸出カードとして利用できるようにしました。

令和 3 年 12 月 1 日から、学習室の座席予約システムを開始し、1 週間前からインターネット予約ができるようになりました。



(一宮市立豊島図書館は平成24年9月30日閉館し、平成25年1月10日一宮市立中央図書館が開館)

中央図書館利用者状況(5年間分)

		開館日数 (日)	利用者数 (人)	貸出者数 (人)	貸出点数 (点)	貸出カード発行件数		駐輪場無料 処理件数 (件)
			その月の 1日平均	うち 自動貸出機	うち 自動貸出機	新規登録者 (人)	再発行者 (人)	
豊島図書館	平成23年度 合計	283	—	184,756	636,366	—	—	無料駐輪場
	平成23年度 1日平均		—	653	2,249	—	—	
平成30年度 合計		320	947,317	405,283	1,381,433	7,949	2,146	34,448
平成30年度 1日平均			2,960	1,267	4,317	25	7	108
令和元年度 合計		301	861,883	372,716	1,252,217	7,203	1,993	30,958
令和元年度 1日平均			2,863	1,238	4,160	24	7	103
令和2年度 合計		280	430,149	298,056	1,056,559	6,579	2,518	20,239
令和2年度 1日平均			1,536	1,064	3,773	23	9	72
令和3年度 合計		321	564,279	351,760	1,248,606	7,337	1,909	25,298
令和3年度 1日平均			1,758	1,096	3,890	29	6	79
令和4年度 合計		313	579,518	334,244	1,175,851	7,678	1,776	23,576
令和4年度 1日平均			1,851	1,068	3,757	25	6	75

事業の概要

1 尾張一宮駅前ビル管理事業

令和3年4月から大成株式会社は、一宮市から尾張一宮駅前ビル指定管理者として指定を受け、「尾張一宮駅前ビルの管理に関する基本協定書」及び「同年度の協定書」に基づき、管理を行いました。

指定管理料等の状況

(単位:円)

区 分	3年度	4年度	5年度	合 計
指定管理料	175,030,882	209,254,499		384,285,381
利用料金(実績)	27,912,966	39,636,024		67,548,990
利用料金(基準額)	43,000,000	43,000,000		86,000,000
利用料金還元金	27,912,966	39,636,024		67,548,990
駐車料(実績)	20,711,962	27,923,072		48,635,034
駐車料(基準額)	30,000,000	30,000,000		60,000,000
駐車料還元金	20,711,962	27,923,072		48,635,034
還元金合計	48,624,928	67,559,096		116,184,024

※尾張一宮駅前ビルの管理に関する年度協定書(抜粋)

(利用料金等還元制度)

第4条 乙(大成株式会社)は、令和4年度の利用料金及び割増利用料金並びに駐車料(以下「利用料金等」という。)は全額を甲に還元するものとする。ただし、その額が73,000,000円(利用料金及び割増利用料金:43,000,000円、駐車料:30,000,000円)を超えた場合、超えた分については、その額の90%を甲に還元するものとする。

各施設の利用概況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、キャンセルに対する全額還付(8月5日～9月30日)を行いました。利用料金については昨年度と比べて大幅に増加し、コロナ禍前と比較しても9割以上まで回復しました。

(運営基本方針)

- ①施設管理: 「一宮市の玄関口としてふさわしい安全・安心・快適な施設」を基本的な考え方として行動し、利用者への目配り・気配り・心配り・思いやりをもった対応と経費削減を行うことを行動指針として掲げて、安全・快適な施設空間の提供、施設の特色を捉えた効果的な施設管理を行うことを目指す。
- ②事業運営: 「賑わいと活力のある地域社会の形成と中心市街地の活性化に寄与する事業運営」を基本的な考え方として行動し、快適な利用環境を提供することを行動指針として掲げて、利用者の満足度や施設利用率の向上を目指す。

2 施設利用状況

区 分	利用件数			利用者数		
	4年度(件)	3年度(件)	対比(%)	4年度(人)	3年度(人)	対比(%)
7階シビックホール・控室	281 [24.0%]	188 [16.5%]	149.5	20,355	12,142	167.6
6階小会議室	473 [58.4%]	380 [46.7%]	124.5	4,864	3,707	131.2
3階イベントスペース	81 [20.7%]	74 [15.8%]	109.5	16,183	9,932	162.9
3階オープンギャラリー	61 [13.2%]	66 [15.0%]	92.4	6,766	3,476	194.6
3階多目的ルーム1	717 [37.4%]	724 [37.6%]	99.0	6,270	7,420	84.5
3階多目的ルーム2	457 [33.0%]	335 [25.9%]	136.4	2,972	2,176	136.6
2階大会議室	477 [63.7%]	358 [48.8%]	133.2	15,041	10,372	145.0
合計	2,547	2,125	119.9	72,451	49,225	147.2

※〔 〕内は、

シビックホール・控室：利用区分数／開館日数×3区分(午前・午後・夜間)×2室

小会議室、イベントスペース、オープンギャラリー、大会議室：利用区分数／開館日数×3区分(午前・午後・夜間)

多目的ルーム 1,2：利用区分数／開館日数×12区分(9時から21時のうち、正時から各1時間)

3 指定管理者自主事業開催状況

事業名	実施日	参加者数(人)	参加費(円)
楽しいハンギングバスケット教室	5月1日(日)	6	3,000
淡水アクアリウム教室	5月7日(土)	2	1,000
ザ尾州ジャズオーケストラ 4th LIVE	6月26日(日)	300	50,000
カブトムシ成虫教室	7月24日(日)	10	1,000
淡水アクアリウム教室	8月6日(土)	10	1,000
石ころアート教室	8月11日(木)	10	500
クラフトひもで作るバッグ教室	10月10日(月)	8	2,000
ウッドバーニング教室	11月12日(土)	4	1,000
ガラスアートで作るクリスマスオーナメント教室	11月20日(日)	10	1,000
クラフトひもで作るしめ縄教室	12月4日(日)	9	1,000
プリザーブドフラワーで作るコサージュ教室	2月5日(日)	7	1,200
お気に入りの布で御朱印帳を作ろう！	3月19日(日)	11	1,200
合計		387	

【主な質疑】

質問：図書館をまとめる役割は図書館管理課が行っているのか。

回答：中央図書館、尾西図書館、玉堂記念木曽川図書館、子ども文化広場図書館、図書室があり、
そのとりまとめを中央図書館が行っている。

質問：市内各小中学校の図書室との連携はどのように行っているか。

回答：市内 61 校(小学校 42 校と中学校 19 校)の各学校が予約をして、月 150 冊まで貸し出す学校支援制度があり、各学校に配送し授業などで使っている。

質問：生徒自らが借りたい本をリクエストするのか。

回答：基本的には授業で使う本を先生がリクエストしている。生徒は学校に入学すると図書室・図書館共通の貸出カードを作るため、自分で図書室・図書館から借りることが多い。

質問：インターネット席の利用制限はあるのか。また、持ち込みパソコン席の利用者はどういった方が多いのか。

回答：インターネット席は予約制ではなく 1 時間ごとの使用で、その次に利用者がいなければ延長できる。登録カードが無くても使える。また、持ち込みパソコン席は基本的には大人の方が仕事関係で使用していることが多い。

質問：中央図書館の中高生を対象にしたイベントは誰が主体となってどのようなイベントを行っているのか。

回答：図書館業務の一部を委託している業者がイベントを企画して運営しており、一日図書館員体験、ビブリオバトル、本を使ったカードゲームなどを行っている。



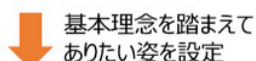
三重県伊勢市

「観光施策」について

伊勢市観光振興基本計画

5つの基本理念

- ①日本を理解し、伊勢の“常若の精神”を理解してもらう
- ②さまざまな人が安全に安心して楽しめるまち
- ③訪れる人が満足のできるまち
- ④住む人も満足ができるまち
- ⑤観光を通じて経済的効果を高める



基本理念を踏まえて
ありたい姿を設定

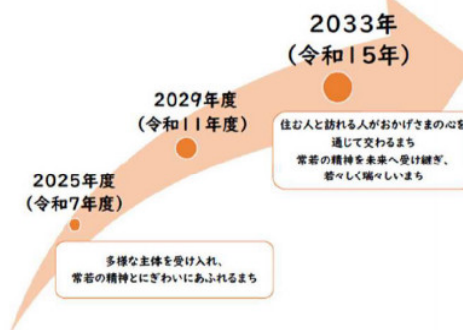
<次期式年遷宮の年（2033年）における伊勢市のありたい姿>

- 住む人と訪れる人がおかげさまの心を通じて交わるまち
- 常若の精神を未来へ受け継ぎ、若々しく瑞々しいまち



<2025年度における伊勢市のありたい姿>

- 多様な主体を受け入れ、常若の精神とにぎわいにあふれるまち



常若の精神とは…

神宮では20年に一度の式年遷宮により社殿をはじめ御装飾神宝（おんしょうぞくしんぼう）をそのままの形で作り替えます。そこには常に若々しく瑞々しくという「常若」という考えがあります。新しく作り替えていく中で技術や伝統を次に伝承していきます。

伊勢市観光振興基本計画

● 5つの基本理念

①日本を理解し、伊勢の“常若の精神”を理解してもらう

神宮は日本人の心のふるさとであり、日本のライフスタイル（生活文化）のシンボルです。それは、神宮がこれまで継承してきた“常若の精神”とともに、伊勢市の市民生活に今も息づいています。神宮を通して大切にしてきた循環型の文化を、伊勢市への観光を通じて、外国人を含む多様な人々に理解していただきたいと考えます。

②さまざまな人が安全に安心して楽しめるまち

訪れる人達が様々であるように、その目的や求める環境も様々です。参拝が目的の人、宿泊が目的の人、食事が目的の人などに加えて、安全・安心な旅を求める人も増えています。安全・安心に楽しめる環境を整え、もともとの目的ばかりでなく、旅先での偶然的発見も含め、その人ならではの旅を楽しんでいただきたいと考えます。

③訪れる人が満足のできるまち

神宮のみならず、まちの様々な場所を訪れていただき、満足を感じていただきたいと考えます。また、地域資源を磨き上げ、常に新しい一面を発信し続けることで、再び伊勢市を訪れたいと思っていただきたいと考えます。

④住む人も満足ができるまち

伊勢市の観光は、神宮を中心とした文化に対する市民の思いや生活が魅力となっています。こうした魅力を感じて多くの人々に訪れていただくことは、伊勢市に住む市民にとっても誇りとなります。観光を通して訪れる人も住む人も双方が、心地よく過ごし満足できるまちにしていきたいと考えます。

⑤観光を通じて経済的効果を高める

多くの観光客を迎えることによって、様々な消費活動が生まれ、直接的な観光のサービス業だけでなく、農林水産業や製造業など市内の多様な産業に経済的な波及効果が期待されます。それによって、市内での雇用の確保・増大にもつながられるような観光の振興を意識していきたいと考えます。

伊勢市観光振興基本計画

④住む人も満足ができるまち

伊勢市の観光は、神宮を中心とした文化に対する市民の思いや生活が魅力となっています。こうした魅力を感じて多くの人々に訪れていただくことは、伊勢市に住む市民にとっても誇りとなります。観光を通して訪れる人も住む人も双方が、心地よく過ごし満足できるまちにしていきたいと考えます。



伊勢おはらい町会議 まちづくり宣言

- 一、私たちは、この町に暮らすことを誇りとし、感謝して生活します。
- 一、私たちは、おはらい町の伝統的なたたずまいを、積極的に守ります。
- 一、私たちは、参拝のお客さまを、真心込めてもてなします。
- 一、私たちは、子々孫々まで喜んで住まうことができる、生き生きとした町をつくります。
- 一、私たちは、このまちに集うすべての人の、安心と安全を考えたまちづくりを目指します。

内宮エリア

活気が失われつつあった内宮おはらい町で、古くから残る伊勢らしいまちなみの保全と再生のために住民・事業者・自治体等が 一体となり長期的に景観整備を実施している。

1950年以降の式年遷宮とまちづくりの変遷

- 1953年 ● **第53回式年遷宮**
参宮有料道路開通（全国初）
第1回神宮奉納全国花火大会開催
- 1954年 御遷宮記念お伊勢博覧会開催
- 1955年 第1回神宮奉納大相撲開催
- 1973年 ● **第60回式年遷宮**
高校総体開催
- 1975年 国体開催
- 1989年 **まちなみ保全条例制定**
- 1993年 ● **第61回式年遷宮**
おかげ横丁開業
- 1994年 伊勢鳥羽二見ライン開通
- 2009年 宇治橋の架替
- 2013年 ● **第62回式年遷宮**
- 2014年 せんぐう館開業

まちなみ保全条例制定に係る取り組み

- ✓ 活気が失われつつあった内宮おはらい町のまちなみの保全と再生のため、住民を中心に「内宮門前町再開発委員会」を結成したことが契機となり制定
- ✓ 神宮の門前町として古くから発達してきた伊勢らしいまちなみを保全する事業として実施



**看板撤去による景観向上、
歩道整備によるまち歩き促進が実現**



当該事業による改修前後の様子

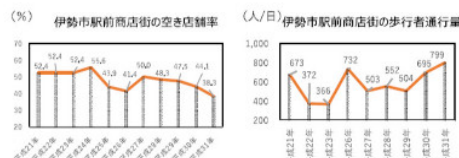
出所：伊勢市「第61回～62回遷宮間の取組おはらいまち外観整備」

外宮エリア

モータリゼーションの進行等による外宮参拝客の減少、伊勢市駅前の大規模小売店の退店等により、外宮が位置する中心市街地の求心力が低下した中でも、修景整備や地元の事業者主体による外宮前独自のイベント開催等により、ソフト・ハードの両面で外宮前のまちづくりを推進

1950年以降の式年遷宮とまちづくりの変遷

1989年	●	まちなみ保全条例制定
1993年	●	第61回式年遷宮 おかげ横丁開業 伊勢鳥羽二見ライン開通
1994年		
2004～ 2006年	●	外宮参道道路工事
2009年		宇治橋の架替
2011～ 2013年	●	伊勢市駅南側広場整備
2013年	●	第62回式年遷宮
2014年		「せんくう館」が開業



外宮前の修景整備

- ✓ 内宮エリアに観光客が集中し、外宮エリアには立ち寄らない状況が続いていたことから、古の立ち寄り順である「外宮から内宮へ」を打ち出した誘客を実施。
- ✓ 外宮前の鳥居前町らしい道路及び沿道沿いの景観を地元観光事業者と協議を深めて検討し整備を実施
- ✓ 外宮前独自の活性化策として外宮前独自のイベントや、ボランティアによる観光客ご案内、土産物の開発などに取り組んでいる



「外宮から内宮へ」の誘客を行うため
ソフト・ハードの両面でのまちづくりを推進

＜外宮参道等の修景改善＞



＜外宮前 ソフト面の取組＞



主な取組の紹介 — 受入環境の整備

●伊勢市駅手荷物預かり所の整備

公共交通機関で訪れる観光客に対して、手軽に「手ぶらで観光」できる環境を提供するために平成25年に整備。



○手荷物配送サービス

配送受付時間までに預けると、その日のうちに伊勢・鳥羽・志摩地域の宿泊先（離島を除く）まで手荷物をお届けする。（有料）
※伊勢市駅手荷物預かり所のみ

●観光案内所

市内各所に観光案内所を設置し、観光案内や相談などに対応。また、市内の観光情報を発信している。※伊勢市観光協会へ運営委託



伊勢市駅観光案内所



宇治山田構内

○設置場所

伊勢市駅、二見浦
○リモート観光案内端末機のみでの案内
宇治浦田案内所、宇治山田駅構内、外宮サービスセンター内

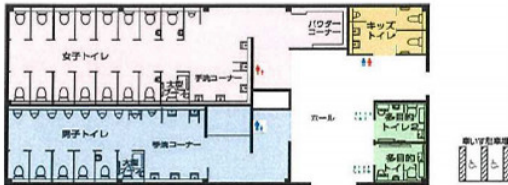
主な取組の紹介 — 受入環境の整備、次世代育成

●観光地のトイレ整備



宇治浦田街路広場トイレ

内宮参拝客数や洋式トイレの普及に対応できていない課題があったことから新設し、令和元年7月に供用を開始



二見浦海岸トイレ

高齢者、障がい者、外国人など多様な観光客に対応するために整備

●伊勢っ子育て事業（平成27年～）



観光客とのふれあいを通じて、身近で気付かなかった伊勢の魅力を知ること、次世代を担う子供たちに自分たちの住む「伊勢市」を好きになってもらう育成事業。

市内在住の小学5、6年生を対象に毎年20名程度の参加者があり、学習会、まち歩き、おもてなしなどの活動を年4、5回程度実施している。

活動には、市内で活躍される大人の方や、皇學館大学生、伊勢っ子OB・OG（中学生～大学生）がサポートして活動を行っている。

主な事業紹介 — コンテンツ造成 外宮参道みやげ開発



あおさドレッシング



伊勢和紙 一筆箋・ポストカード



抗菌マスクケース



ロゴ

「神都」と呼ばれる伊勢は、神宮の鳥居前町として伊勢神宮の歴史とともに歩み、栄えてきた。

森の中の皇大神宮（内宮）は宇治地区にあり、豊受大神宮（外宮）の周辺に山田のまちがある。

神々の食を司り、五穀豊穡や子孫繁栄を祈り続けた外宮に感謝し、さまざまなジャンルのづくり手がその思いを「外宮参宮みやげ」としてカタチにした。

当プロジェクトでは、伊勢まちづくり株式会社がプロデューサー役を担い、地域の事業者に参加を呼び掛けると共に、参加事業者の商品開発支援を行った。

伊勢・外宮参宮みやげ開発への取組み
（伊勢まちづくり株式会社の事業報告書より抜粋）

主な取組の紹介 — バリアフリー観光の推進

● 伊勢おもてなしヘルパー



障がい者や高齢者が安心して、観光・参拝を行える体制を整えるために、皇學館大学、伊勢志摩バリアフリーツアーセンター、地元団体等が参画した組織を設立。有償ボランティアサービス「伊勢おもてなしヘルパー」を平成28年度から開始。

【設立まで】

内宮の御正殿の前に25段の石段があり、移動に不自由がある方は参拝を諦め、伊勢への来訪を見送っている方もいた。元々、地元住民中心に無償ボランティアで活動していたが、随時・持続的なサービス提供が難しい状況であった。

【サービス内容】

内宮鳥居前でWHILL(電動車いす)に乗り、内宮の参道を進む。御正殿前の石段手前で一般的な車椅子に乗り換え、人力で石段上まで持ち上げる。

【実績】 令和5年度 依頼件数 134件
ヘルパー出勤人数 288名

● バリアフリー情報発信

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと協働で、「伊勢バリアフリー」に関する情報を発信するHPを運営している。「エリア」を選択し、自分が必要とするバリアフリー項目を選択すると、下記の地図に赤丸が印されて、自分が行きたい店舗、施設の場所だけを地図に落とし込めることができる。



主な取組の紹介 — バリアフリー観光の推進

● 通信機能付きカメラを利用した遠隔音声案内の実証実験(R2.11)

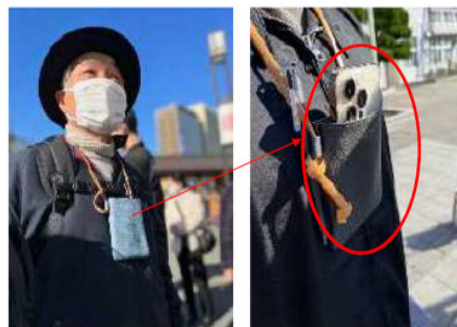
おはらい町・おかげ横丁で、視覚に障がいのある方、大学生、観光ガイドの方などが参加し、目の不自由な方が利用できる観光案内ツールとして、通信機能付きカメラを利用した遠隔での音声案内の実証実験を行った。



● 視障がい者サポートアプリを活用した実証実験(R4.8)

誰もが顔をあげて歩ける街を目指して、「アイナビ」等の視覚障がい者向け歩行支援システムを活用した街あるきや意見交換会を実施。

実証実験では、「Om先、目的地です」、「車止めがあります」などの危険察知、「〇〇ぶりが有名です」等の音声案内により、視覚障がい者の観光散策を支援。



主な取組の紹介 — 外国人観光客の誘客

●英国アーティスト・イン・レジデンス伊勢

英国の公的な国際文化交流機関である「ブリティッシュ・カウンシル」と伊勢市が、日英交流年「UK in JAPAN2019-20」の一環として、リサーチ・レジデンスを実施。英国のアーティスト6組7名が2週間滞在した。アーティストの滞在中はカメラマンやライターが随行して取材し、ブリティッシュ・カウンシルのウェブサイト上で、滞在記録を映像、写真、文章によって発信した。



●外国人短期留学生招聘及び情報発信事業

皇學館大学と協働で、日本・伊勢の歴史文化に興味を持つ欧米圏等の学生を対象に、皇學館大学の留学生として伊勢の地で伊勢について学ぶプログラムを実施した。参加留学生は滞在中に自身のSNSを活用し、日々世界へ伊勢を発信した。



●多言語パンフレットの作成

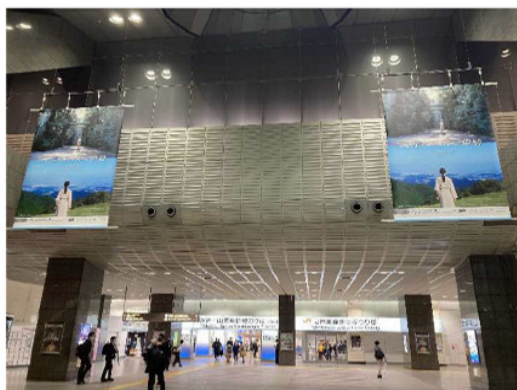
新規の外国語版の観光パンフレット（5か国6言語）を作成。市内の観光案内所での配布や世界のJNTO拠点等に設置している。作成言語は英語、フランス語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、タイ語。



主な事業紹介 — ターゲットを定めた国内からの誘客

●公共交通機関との連携

関東圏からの誘客及びリピーター化を図り、公共交通機関の利用を促進するため、J R 東海とのタイアップにより、市内の周遊促進を図る旅行商品を造成し、J R 東海主要駅や新幹線で伊勢を訴求するポスターやデジタルサイネージを展開。



東京駅日本橋口へのバナー掲示の様子

●ラジオ放送等を活用した情報発信

重点取組み遠隔地である北海道へ伊勢市の情報を効果的に発信するため、エフエム北海道とタイアップし、番組内でのPRや、現地での観光物産展、リスナーツアー等を実施。

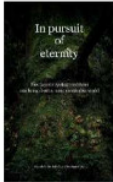


観光再始動事業：高付加価値な旅の提供

伊勢神宮の本質を訪日外国人にも理解してもらい、付加価値の高い体験を提供する取組を国の調査事業として実施。

■テキストの作成

- 高品質な英語表現を基盤としたインバウンド高付加価値旅行者層向け英語版ブックレットやインタープリター（解説者）向けテキスト（教本）を作成。
- 神宮司庁広報室により表現の監修協力。



『英語版ブックレット』やインタープリター向けの教材を作成。神宮における循環型の文化や自然との共生について解説。



Ryota Momoki
staff member



Yukiaki Tenpaku
Ishinomoto Art Museum



Shintaro Okada
chef

解説においては、神宮の文化だけではなく、神宮鳥居前まちでの生活文化の本質を伝えている生産者や料理人の想いを表現。

■体験コンテンツの造成

- インタープリターによる解説だけでなく、伊勢志摩の食や文化、伝統を実感できるコンテンツを造成し、モニターツアーで検証。



和装し、早朝から御神楽奉納・神宮参拝。その後、内宮鳥居前町伊勢おはらい町で神宮御料酒を納める蔵元「白鷹」の特別限定酒を扱う「白鷹三宅商店」のカウンターにて、神宮と酒の関係性を学びながらランチ。



伊勢神宮に関わるみそぎの場としても栄えてきた「二見」エリアで、古来より続く「塩」づくりを続ける塩工生産者への訪問。

地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業

観光庁補助事業の採択を受け、宿泊施設、飲食店等の改修により面的に景観形成を図るとともに、滞在価値を高め、神宮鳥居前まちとしての面的な賑わいを創出

■施設改修による体験価値向上

- 宿泊施設・飲食店の改修補助を受け、サービス改修改善等に着手し、宿泊・飲食そのものの体験価値を向上させ、単価増、滞在時間の延伸と市内周遊促進による消費機会の拡大を図る



改修施設例（外宮前飲食店）
神宮を知り、伊勢志摩を学べる場、観光交流できる場として空き店舗を改修、カフェ開設

■多様な主体を受け入れる環境整備

- 多様な主体を受け入れる環境を整備し、観光施設等の価値向上により面的に観光消費額を底上げを図る



外宮前鳥居町の取組として、講演会も開催し、外宮参道や外宮への案内を同時に実施

【主な質疑】

質問：伊勢未来プロジェクトについて、子供を育て、観光につなげる取り組みはどのようなものか。

回答：伊勢っ子育て事業は小学生5・6年生対象で、伊勢未来プロジェクトは高校生対象であり、観光に限らず高校生自らがゼロから企画したものを募集し、結果的に観光パンフレットを作成した。

質問：伊勢っ子育て事業について、その組織作りはどのようなものか。

回答：この事業は約 10 年前にスタートし、それぞれの地域から公募で参加していただいている。各地域で参加した子供が将来中心になっていただくことを期待している。

質問：前例が無いまちづくり、実証実験は誰が主体となって進めているのか。

回答：内宮エリアでは民間が主導している。「なんとかせなあかん」と年に 200 日以上会議を行い、来てもらいたくなる町を目指し、市議会議員や行政にかけあった。また、観光客への調査を行い、ターゲットを定め、それに即した観光施策を行っている。

質問：伊勢市観光振興基本計画の雇用の確保・増大とはどのようなものか。

回答：バリフリー化・多言語化などの高付加価値化事業を行い、観光価値を高めて、賃金を上げ、労働環境を改善し、ひいては雇用を守るというものです。

質問：観光協会について、どんな役割を担っているのか。

回答：観光協会会長は赤福の社長であり、市とかなり親密な関係を築いている。一緒にアイデア出しを行うなど、パートナーとなっている。



愛知県刈谷市

「刈谷市総合文化センターアイリス内での生涯学習事業」について

「中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」」について

1 生涯学習事業について

(1) 実施している講座・イベント

種類	概要	実施方法	令和5年度実績
市民講座	市民の生涯学習活動へのきっかけづくり・学習活動を通じた受講者相互の交流の促進という観点で実施する講座。連続講座、1DAY講座、季節講座がある。	指定管理者に委託	講座数 64講座 受講者数 1,164人
地域を学ぶ講座	地域への関心を高め、地域を愛する心を育むため、地域の歴史、自然、特色など地域性を重視した内容の講座。	指定管理者に委託	講座数 1講座 受講者数 20人
まなびの教室	市民が講座を企画し、自らが指導者として活躍する機会を提供するために実施。	指定管理者に委託	講座数 10講座 受講者数 107人
大学連携講座	高等教育機関と連携して実施する専門的な講座。現在は県内の4大学の協力を得て実施している。	市が実施	講座数 9講座 受講者数 273人
アイリスカルチャークラブ	さらなる技術向上や継続的な活動を希望される方向けのスクール事業。	指定管理者の自主事業	講座数 14講座 受講者数 304人
生涯学習リーダー企画講座	生涯学習リーダー基礎知識講座の修了者で組織する生涯学習リーダー連絡協議会が企画・運営する講座。	生涯学習リーダー連絡協議会に委託	講座数 17講座 受講者数 335人 ※うち、6講座99人は下記「刈谷まなびの広場」と重複
刈谷まなびの広場	市民の学習活動へのきっかけづくりを目的に、子どもから大人まで楽しめる各種体験講座の他、市民講座受講者等が活動成果を披露する展覧会や発表会を実施する生涯学習イベント。	指定管理者に委託	講座数 17講座 受講者数 240人 展覧会入場者 474人 発表会入場者 307人

(2) 講座・イベント以外に実施していること

種類	概要	令和5年度実績
アイリスまなびの相談室	市民の生涯学習活動に関する問合せ等に対応。 ＜主な問合せ内容＞ 講座内容について、講師について 等	相談件数 90件
まなび応援情報誌「アイリスおけいこサークルBOOK」	総合文化センターで活動する各サークルの活動紹介やメンバー募集等の支援を目的に発行する冊子。	発行回数 2回

(3) 市と指定管理者の主な役割

区分	主な役割
刈谷市	・費用負担（指定管理料として支払い） ・各種講座、イベント等についての広報（市民だより、市ホームページ等） ・大学連携講座の企画・運営 ・グループ・サークル名簿、指導者名簿の作成
指定管理者	・各種講座（大学連携講座、生涯学習リーダー企画講座除く）、イベント等の企画・運営 ・大学連携講座の運営支援 ・各種問合せ対応

2 アイリス少年少女合唱団について

(1) プロフィール

令和3年度開催の歌劇「夕鶴」をきっかけに設立。現在は年長児から大学生までの約90人が在籍。音楽経験の有無を問わず、歌うことが好き、新しい友達を作りたい、ステージに立ってみたいなど、様々な思いを胸に、刈谷市内外から集まった子どもたちが活動中。仲間との様々な音楽体験を通じて、自分で感じ、考え、表現する力を育むことを目指している。

(2) 活動内容

月4回、日曜日の午前中に総合文化センターまたは社会教育センターで練習し、公演を年3回程度実施している。

＜令和5年度公演実績＞

8月 アトリウムコンサートVol.144「響け、ぼくらの歌声 ～アイリス少年少女合唱団～」

1月 アイリス少年少女合唱団 ニューイヤーコンサート 2024

3月 刈谷まなびの広場 アイリス少年少女合唱団コンサート



(3) 活動に対する市と指定管理者の主な役割

区分	主な役割
刈谷市	費用負担（指定管理料として）、公演等に関する広報
指定管理者	公演の企画・運営、メンバー募集業務、予算管理

3 刈谷国際音楽コンクールについて

(1) コンクール概要

“子どもたちの音楽の可能性を引き出すこと”、“若手演奏家の才能を見いだし育てること”を目的として開催する音楽コンクールで、令和6年度に第10回を迎える。主催は刈谷国際音楽コンクール実行委員会、共催として、刈谷市と総合文化センターの指定管理者であるKCSN共同事業体が運営に協力している。

＜参考＞

第9回コンクール参加者数…158人（弦楽器部門、ピアノ部門、フルート部門の計）

(2) 運営協力の内容

- ①総合文化センターのホームページへのコンクール情報掲載
- ②コンクールに関するチラシ、ポスター設置
- ③コンクールに関する問合せ対応
- ④コンクール及び受賞者記念演奏会での運営サポート
- ⑤運営費の一部を支援

(3) シティプロモーションへの貢献

「刈谷」の名を冠した本コンクールは、東京フィルハーモニー交響楽団でコンサートマスターを務める近藤薫氏をはじめとする一流の音楽家を審査員に迎えて継続的に開催してきており、県内に限らず、全国から参加申込みがあることから、本市のシティプロモーションの面でも効果があると考えている。



4 文化工房かりやについて

(1) プロフィール

刈谷市総合文化センターを拠点とし、文化芸術を発信していくことを目的とし、平成23年4月に結成された市民ボランティアグループで、現在27人が登録している。

結成当初は、主催舞台公演の企画制作を中心に活動していたが、情報誌の発行など徐々に活動の幅を広げてきた。

(2) 主な活動内容

- ①文化工房かりや主催舞台公演の企画制作
- ②情報紙「BUN-KA」の発行
- ③SNSでの情報発信や活動内容などのPV作成
- ④センターで開催される公演での受付、会場案内
- ⑤アトリウムでの無料ミニコンサート・イベントの企画・運営（年1～2回）
- ⑥定例打合せの実施（月1回）

(3) 活動に対する市と指定管理者の主な役割

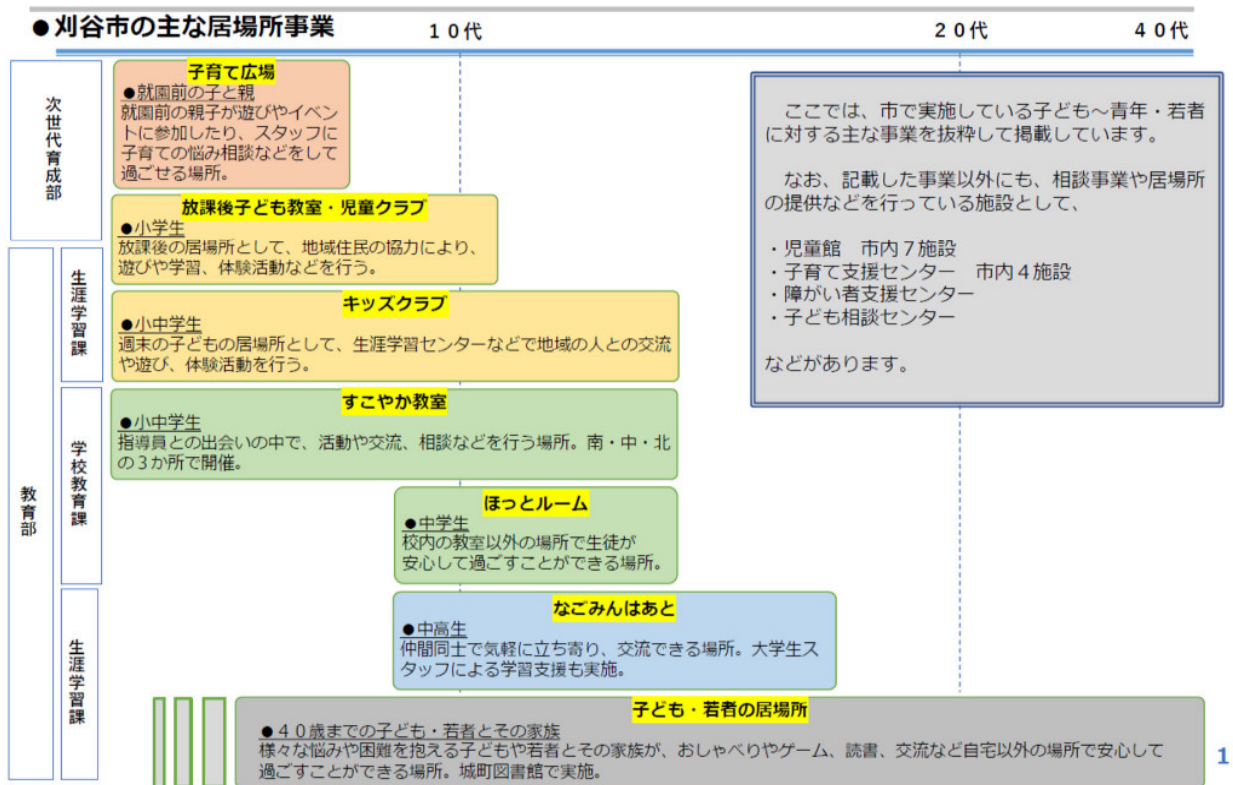
区分	主な役割
刈谷市	費用負担（指定管理料として支払い）、メンバー募集等に関する広報、定例打合せへの参加
指定管理者	活動に対する助言、メンバー募集業務、予算管理、定例打合せへの参加

5 指定管理料について

区分	令和5年度	令和6年度
生涯学習事業分 （市民講座、刈谷まなびの広場 等）	12,166,000円	12,339,000円
文化振興事業分 （ホール事業、アイリス少年少女合唱団、 刈谷国際音楽コンクール 等）	35,214,000円	33,060,000円
その他の管理事業分 （施設維持管理 等）	434,716,000円	446,987,000円
計	482,096,000円	492,386,000円



中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」について



中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」について

1 概要

(1) 開設

平成22年4月 中高生の居場所「なごみんはあと」開始
 平成29年9月 学習支援「なごみん塾」開始

(2) 趣旨

中高生が放課後に自由に集い、地域の人々や大学生と交流や悩み相談ができる機会を提供する。また、中高生自らイベント等の企画運営に携わることができる機会を提供することにより、中高生の自立を支援する。

(3) 事業の背景

- ・学校での居場所がない → いじめ、不登校
- ・学校以外の居場所がない → 街中でのたむろ、非行
- ・中高生の主体的な活動の場がない
 乳幼児期には子育て支援センターなどが、小学生には放課後子ども教室などがあるのに…



- 仲間同士の助け合いや悩み相談(ピアカウンセリング)、自主活動の支援による中高生の自立支援について必要性を感じていた。
- 県から市に、補助金の紹介があった。(厚労省 次世代育成交付金)
- 刈谷市総合文化センターが刈谷駅前にオープン(平成22年4月)
 そこに居場所ができれば中高生が集まりやすいのではないか、という考えがあった。

中高生の居場所「なごみんはあと」誕生

中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」について

2 事業内容

(1) なごみんはあと（毎週火・木 16:00～21:00）

放課後に気軽に集うことができるフリースペース
毎週、同じ時間に同じ場所で、友達と話をしたりゲームをしたり、スタッフに悩み相談をしたりして自由に過ごすことができる居場所
スタッフでアイデアを出し合い、定期的にイベントも開催

●主な実施イベント

- ・なごみんクラフト
- ・多目的ホールで遊ぼう（月1回程度）
多目的ホールを貸し切り、スポーツや紙コップタワーづくりなど
- ・調理実習室で遊ぼう（年3回程度）
ケーキ作り、たこ焼きパーティーなど
- ・夏休みフォトコンテスト

(2) なごみん塾（毎週火・木 16:00～21:00）

持参した教科書、問題集、宿題などで自主学習ができ、わからないところや勉強方法などの質問があれば、大学生のスタッフが一緒に考える学習支援の場

3 運営

運営形態：業務委託
委託先：NPO法人 子育て・子育てNPOスコープ
体制：スタッフ1人、学生スタッフ2人



なごみん塾の様子
(総合文化センター)

3

中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」について

4 予算（令和6年度）

予算額 3,148,000円（すべて委託料）

★特定財源 770,000円

（愛知県地域学校協働活動推進事業費補助金「地域未来塾実施分」）

（参考）その他の居場所事業

放課後子ども教室 36,386,000円

（うち、臨時予算 PC更新 5,014,000円）

キッズクラブ 2,968,000円

★特定財源（2事業合計） 19,295,000円

（愛知県地域学校協働活動推進事業費補助金「放課後子ども教室実施分」）



放課後子ども教室の様子

5 実績

令和5年度 中高生の居場所づくり事業利用状況

■利用者集計表

月・開催日数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学年		6	8	9	6	0	8	9	8	6	7	9	6	82
通常開催・学習支援	中学1年生	0	2	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
	中学2年生	20	39	43	7	0	8	8	9	13	15	8	2	172
	中学3年生	0	0	3	0	0	4	7	8	4	0	2	0	28
	高校1年生	2	0	2	0	0	1	0	3	0	0	0	1	9
	高校2年生	0	6	5	0	0	3	3	5	7	1	9	5	44
	高校3年生	3	7	11	8	0	7	26	24	5	10	7	3	111
合計		25	54	67	15		23	46	49	29	26	26	11	371

4

【主な質疑】

質問：指定管理料の全額がKCSN共同事業体に支払われるのか。また、その内訳は。

回答：KCSN共同事業体は 4 社の共同体であり、ホール・施設管理・清掃などの事業を担っており、その全額を支払っている。レストランは指定管理料を受け取っておらず、売上げの一部をKCSN共同事業体へ支払っている

質問：刈谷国際音楽コンクールの設立の経緯は。

回答：東京フィルハーモニー交響楽団でコンサートマスターを務める近藤薫氏の父が刈谷市音楽協会に所属しており、刈谷市からお願いして、実行委員長として尽力していただいた。

質問：文化工房かりやの設立の経緯は。

回答：元々5年ごとの市の周年事業に公演をうっていただいていた市民団体であり、刈谷市総合文化センター立ち上げに際し、指定管理における仕様書に記載し、市からアプローチし集まっていた。

質問：生涯学習講座について小中学校の長期休みに合わせた講座はどのようなものがあるか。

回答：専門家が講師となり、自由研究で使えるような理科や科学の実験講座や料理教室などを行っている。

質問：「なごみんはあと」スタッフに元教員などではなく、大学生を入れたきっかけは。

回答：委託先である子育て・子育てNPOスコープに相談した結果、中高生が一番相談しやすい大学生を採用した。

